

工業触媒研究会

1. 研究会の目的

エネルギー転換や環境保全の観点から、エネルギー、石油化学、環境関連産業を中心に、触媒の重要性がますます高くなっている。触媒学会ではこのような社会の要請に応えるべく、研究活動が活発に行われているが、触媒の実用に関わる諸問題（製造方法、使用方法、運転方法、充填方法、触媒劣化、劣化触媒の再生、使用済み触媒の処理方法など）について学会の研究活動として正面から取り上げられることは多くはなかった。

本研究会の目的は、これらの問題を解決するために既存の基礎研究会との連携を図り、学会と産業界との間のシーズとニーズの接点を増やすことにより、工業触媒技術の発展と触媒学会の発展に貢献することである。研究テーマとしては、工業触媒調製法、触媒劣化現象の解析法とその対策、触媒の使用方法、劣化および使用済み触媒の再生・処理方法、実用化された触媒プロセスの研究などを取り上げている。

2. 研究活動の概略、動向、展望

2.1 定例研究活動

当研究会は上記の目的を掲げて2006年度に設立され、実用触媒という接点で産官学のブリッジの役割を担うべく、現在下記の研修会、フォーラム（シンポジウム）の開催及び触媒討論会へのセッション参加を中心に活動している。更に化学工学会反応工学部会触媒反応工学分科会に協賛参加し、工業触媒技術の発展に寄与すべく議論に参加している。その他にも、工業触媒ニュース（ICN）の毎月1回の発行や、「工業触媒劣化／触媒調製事例集」の作成を継続的に行っている。

2.2 第126回触媒討論会

オンライン開催となった第126回触媒討論会において、工業触媒セッションを開催（2020年9月18日）し、以下の依頼講演6件を含む7件の発表が行われた。オンライン上の聴講者数は100人を超える盛況であった。

依頼講演

- 1) 燃料電池の性能向上に向けた電極触媒開発の取り組み（トヨタ自動車）喜多尾 典之
- 2) 新規ポリオレフィン-シリコンブロック共重合体（イクスフォーラ®）の開発（三井化学）岡部 晃博
- 3) CO₂を用いた燃料と化学品製造に必要な触媒（アイシーラボ）室井 高城
- 4) プロパンの気相接触アンモ酸化に用いる工業触媒の開発（旭化成）加藤 高明
- 5) ハイブリッドチタニア担体を用いた水素化脱硫触媒の特性および商業実績（千代田化工建設）武藤 昭博
- 6) プラスチックを取り巻く状況と石油・化学産業の役割（東北大）熊谷 将吾

2.3 第1回工業触媒研究会「産学連携シンポジウム」

2021年1月26日(火)オンラインにて第1回工業触媒研究会「産学連携シンポジウム」を開催した。例年は工業触媒研究会フォーラムを開催していたが、コロナ禍で従来の集合型の講演会スタイルは困難と判断し、その一方で技術者同士の交流を維持していきたいという趣旨から、スタイルを変えて題記シンポジウムを開催することとした。以下の11の企業および研究機関から話題提供を頂き、交流を深めた。オンライン開催かつ参加費無料としたことで、首都圏から離れた地域からの聴講や学生を含む触媒学会非会員の参加も多く、工業触媒研究のすそ野を広げる意味でも有意義な試みとなった。

- 1) 九州大学
- 2) 産業技術総合研究所
- 3) 出光興産
- 4) クラリアント触媒
- 5) 住友化学
- 6) 西部技研
- 7) 千代田化工建設
- 8) 日揮触媒化成
- 9) 日揮ユニバーサル
- 10) 三菱ケミカル
- 11) ENEOS

2.4 第13回工業触媒研究会研修会(延期)

2020年5月29日(金)成蹊学園 箱根寮において、3件の講演と劣化事例/調製事例対策事例研究会を計画していたが、コロナ禍における緊急事態宣言の状況下、今年度の開催は見合わせ延期することとした。

3. 世話人代表

松下 康一 (ENEOS 株式会社 中央技術研究所)

〒231-0815 横浜市中区千鳥町8

TEL: 045-415-7388

E-mail: matsushita.koichi@eneos.com